

出典：裁判所ホームページ（<https://www.courts.go.jp>）の裁判例情報をもとに作成

事件番号	昭和 36(オ)342	原審裁判所名	札幌高等裁判所
事件名	所有権移転登記手続請求	原審事件番号	
裁判年月日	昭和 36 年 11 月 30 日	原審裁判年月日	昭和 36 年 1 月 20 日
法廷名	最高裁判所第一小法廷		
裁判種別	判決		
結果	棄却		
判例集等	民集 第 15 卷 10 号 2629 頁		

判示事項	事務管理者が本人の名でした法律行為の効果。
裁判要旨	事務管理者が本人の名でした法律行為の効果は、当然には本人に及ぶものではない。

全 文	
主 文	本件上告を棄却する。 上告費用は上告人の負担とする。
理 由	上告代理人小野寺彰の上告理由について。 <u>しかし、事務管理は、事務管理者と本人との間の法律関係を謂うのであつて、管理者が第三者となした法律行為の効果が本人に及ぶ関係は事務管理関係の問題ではない。従つて、事務管理者が本人の名で第三者との間に法律行為をしても、その行為の効果は、当然には本人に及ぶ筋合のものではなく、そのような効果の発生するためには、代理その他別個の法律関係が伴うことを必要とするものである。原判決は右と同趣旨の下に、本件においては、右別個の法律関係について何ら主張且つ立証するところがないことを理由として、上告人の主張を斥けたのである。されば、原判決には所論の違法は認められない。</u> よつて、民訴四〇一条、九五条、八九条に従い、裁判官全員の一致で、主文のとおり判決する。 (裁判長裁判官 入江俊郎 裁判官 齋藤悠輔 裁判官 下飯坂潤夫 裁判官 高木常七)

※参考：判例時報 282 号 19 頁